

(七) 奈良本・峠遺跡^{とうげいせき}

峠遺跡は、奈良本と北川の境^{さかい}あたりにある遺跡です。この遺跡は、天城^{あまぎ}の山々から続く峰^{みね}の先に位置し、高さ一八〇メートルほどの台地にあります。ここからは、大島をはじめとする伊豆七島の島々が良く見えます。今ではこの遺跡の大部分は、住宅の分譲地^{ぶんじょうち}となり、住宅などが建っています。

この場所に遺跡があることは、昭和^{しょうわ}の初め頃からわかっていましたが、正式な調査は行われていませんでした。昭和二十五年（一九五〇年）に初めて調査が行なわれましたが、周辺に畑が作られていたことから、限られた範囲^{はんい}の調査でした。

昭和六十二年（一九八七年）から平成三年（一九九一年）にかけて四回にわたる本格的な発掘調査^{はつくつちようさ}が行なわれています。この調査では、今から約九〇〇年前である縄文時代早期から約六〇〇年前である縄文時代前期の

人が住んだ跡や道具などが出土しています。出土した道具は、食事の煮炊^{にた}きなどに使われた土器^{どき}の破片^{はへん}や、黒曜石^{こくようせき}で作られた弓矢^{ゆみや}の先の鏃^{やじり}などです。とくに鏃などの黒曜石から作られた石器が数多く出土していることから、ここには伊豆七島の神津島^{こうづしま}から運ばれてきた黒曜石から鏃などの石器を作るために多くの人が住んでいたことがわかっています。

